第10回ベンチャー・カップCHIBA

千葉市産業振興財団主催

受賞盾と賞金を手にした発表者たち

千葉市産業振興財団（千葉市中央区、早川公司理事長、043・201・9501）は新規性や独創性の高い事業プランを表彰する「第10回ベンチャー・カップCHIBA」を千葉市内のホテルで開催した。同市内に拠点を置いているか、置く意思のある事業者が対象の「一般部門」では、事前審査を通過した5社が企業関係者ら約170人を前にプランを発表。グランプリと準グランプリに各1件、優秀賞に3件を選んだ。今回は、同財団の設立10周年を記念し、学生考案の優秀なプランを賞する「学生部門」と、地域が持つ課題の解決に成果を挙げたプランを賞する「コミュニティビジネス（CB）部門」を新設。学生部門1件、CB部門は2件を選んだ。全受賞プランを紹介する。

第10回ベンチャー・カップCHIBA

一般部門

グランプリ　オーエックスエンジニアリング

「着脱容易な電動ユニットを装備した電動手動兼用車いす」をテーマとし、コンパクトで軽量な電動車いすを目指す

代表取締役社長
石井　重行氏

オーエックスエンジニアリングは「軽く、こぎやすく、疲れにくい」手動車いすづくりを目指している。

「着脱容易な電動ユニットを装備した電動手動兼用車いす」は、同社が培った手動車いすづくりの思想を生かし、従来の電動車いすにある不便な点の解消を図った点が評価された。

兼用車いすの総重量は、自社の既存製品の約半分となる26キログラムが目標。レバーを引けば、本体と車輪直結のモーターユニットなどに分割できる。自動車での運搬も簡単で、介助者の負担を軽減する。ユニットを外して手動用車輪を付ければ、手動車いすとしても使える。

子どもが使う場合、従来品では成長に伴い、全体を作り替える必要があった。兼用車いすは車輪やフレームなど部品の交換で対応できる。ユニットを内製化して、販売価格は従来の6割程度となる30―35万円を予定。車いすは購入時に厚生労働省の「補装具費支給制度」で補助されるが、兼用車いすなら使用者と国双方の費用負担の軽減も期待できる。

開発には、石井社長の使用者としての視点が生きる。バイクレーサーだった社長は1984年、バイクイツで開かれた2輪車の展示会で、開発した車いすを現地人に称賛されたことで事業化を決めた。以降も一使用者として、開発を進めている。

来年3月の発売を目指し、開発はラストスパート。発売前には全国で試乗会を実施予定だ。石井社長は「兼用車いすで、車いす使用者の行動範囲をもっと広げていくお手伝いをしたい」と話す。

（千葉市若葉区中田町2186の1、043・228・0777）

完成予想図

試乗会での不慮の事故で車いすでの生活となった。以後、使いやすい車いすを求めて改良の連続。90年にド

準グランプリ　有備

災害に備える「防災トイレ」の開発・製造・販売

代表取締役
飯高　芳之氏

「備え有れば憂いなし」―。有備という社名の由来は、このことわざ。商品を通じ、災害など有事の際にも通常の生活を営む手助けをしたいという飯高芳之社長の願いが込められている。

「防災トイレ」も、その願いが形になった商品の一つ。通常は水洗トイレとして使用。災害で上下水道が停止した場合は便器底のフタを外せば、くみ取り式として使える。便器の下には汚物を約60リットル収容できる便槽を設置。大人1人が1日に排せつする量が約1・3リットルで、4人家族なら10日間以上くみ取りが不要。くみ取りや消毒は処理業者に委託できる。

今年3月に東日本大震災が起き、世間の関心が一層集まっている防災への備え。特別な操作無しで、普段のトイレを有事発生時に利用できることが準グランプリ受賞につながった。

開発開始は、社長がリフォーム業としてトイレの改修を手がけながら、リフォームに代わる新事業を模索していた約6年前。従来の、マンホールに仮設して周囲にテントを張るタイプの防災トイレに「設営にかかる時間やプライバシーの点で問題を感じていた」（飯高社長）ことから、不要になった便器で試作を重ねた。2009年に実用化し、現在まで、千葉県内の障害者支援施設や都内の集合住宅など4件に納入した。

3回目の挑戦で手にした準グランプリ。「事業の方向性の正しさを確信できた」（同）と喜びもひとしおだ。今後は家庭や、病院や警察など有事でも仕事放棄できない職場への導入を目指していく。

（千葉市花見川区千種町215の23、043・445・7667）

優秀賞　共立化成

処理困難な産業廃棄物（廃油等）のリサイクル推進による環境負荷の低減とCO2削減プラン

代表取締役
野村　進一氏

共立化成は固形状の廃油など、これまで使い道がなく焼却処分されていた油泥などの廃棄物を「ブレンド燃料」として製品化することに成功した。限りある資源を無駄なく活用する安価なエネルギーとして、広く普及を目指している。

ブレンド燃料は、粗悪な廃油や油泥、汚泥、廃酸、廃アルカリなどの原料に希釈剤と含油水を加え、常温でかき混ぜて製造する。ボイラ燃料の代替品や補助燃料としてさまざまな業界に供給している。価格は重油や石炭など既存燃料に比べて半額程度に設定している。

一般的に廃油などを再生する際は、可能な限り純度を高めようとするが、再生の過程で取り除いた不純物は、結局は廃棄物となる。同社は不純物を取り除くのではなく、丸ごと再利用する逆転の発想で、他社にはない新規性と優位性を確立している。

（千葉県市原市古市場231、0436・41・1552）

優秀賞　CMS

スマート（次世代）ホームページの製作と運用サービスの提供

代表取締役
曽根　藤昭氏

CMSは商工会議所や観光協会など多くの会員を抱える団体向けに「スマートホームページ」の製作・運用サービスを始める。会員のホームページ（HP）の更新情報を自動的に取得し、表示する機能を持たせたHPで、システム管理者の負担軽減が可能になる。製作費用は50万―200万円を予定。来年にも受注活動を開始し、同時に製作・運用を担う代理店も募集する。

「RSS」という形式で更新情報を提供するHPやブログ、ミニブログ「ツイッター」を表示可能。これまでは団体HPの管理者が、会員HPの更新情報を手作業で反映させることが多く、管理者の負担となっていた。

問い合わせデータをエクセルファイルに自動変換する機能、文字や背景の色を変えられる機能なども搭載する。

（千葉市中央区新田町10の1田中ビル1階、043・302・1850）

優秀賞　ワイアンドケイ企画

水撃現象を応用したアオコ等に関する処理システム事業

代表取締役
清水　康史氏

ワイアンドケイ企画は上下水道や道路の設計に関するコンサルタント業務を手がける。現在は「水撃現象」を発生させるポンプを使い、ダム湖や湖沼のアオコを処理するシステムを開発中。新しい事業の柱として育成を図る。

システムは、ダム湖などから配管を通じて「水撃ポンプ」に流す仕組み。ポンプで水流を遮断するとポンプと管の内部に衝撃圧（水撃圧）が発生。アオコの細胞を破壊し、悪臭や景観悪化を防ぐ。ポンプは水の落差によるエネルギーによって作動する。ランニングコストがほとんどかからず、薬剤などによる処理に比べて環境に対する影響が小さい。

今後は官公庁などを中心に採用を働きかける一方、細胞破壊後のアオコを、微生物を利用して分解する仕組みの構築にも取り組む考えだ。

（千葉市美浜区高洲3の14の1、043・279・4262）

学生部門

グランプリ　aba

高齢者と介護者のための非接触型尿検知器の製造販売

代表取締役
宇井　吉美氏

abaは、千葉工業大学4年の宇井吉美さんが設立したベンチャー。非接触型尿検知システムの開発を進めている。

開発の端緒は研究室での介護実習。排せつの時機がつかめず、おむつを無駄に替えてしまうという介護者の苦労を知った。これまでも検知システムはあったが、使用者の身体にセンサーを接触させるタイプがほとんどで「煩わしく感じている使用者が多かった」（宇井吉美社長）ため、非接触型の開発を決めた。

システムは、要介護者が使う敷布団の上に特殊なシートをかぶせ、尿の排せつを検知させる仕組み。シートは複数のセンサーを内蔵しており、排せつ時のアンモニア量や温度、湿度の変化を感知。介護者に知らせる。

接触型システムの年間使用代金より安い15万円に価格を設定した。来年3月に完成予定。介護施設に1年無償貸与して臨床データを集め、正式販売へとつなげる。

（千葉県習志野市津田沼3の10の23、090・8310・1066）

コミュニティビジネス部門

コミュニティビジネス賞　特定非営利活動法人 ちば地域再生リサーチ

ニュータウンにおける暮らし・活動の包括的サポート・活性化事業

マネジメント・ディレクター
陶守　奈津子氏

ちば地域再生リサーチは、千葉市の海浜ニュータウンの住民を対象に事業を展開する。住民の持つ技術や資源を生かしたリフォームや買い物配達などの高収益事業を手がける。地域の空き家を改修しアトリエとして開放するなど地域貢献も果たしつつ、ビジネスとして成立させている。「社会貢献度が高く低収益の事業と、高収益の事業の両方を手がける」（陶守奈津子マネジメント・ディレクター）のが信条だ。

同法人は、集合住宅の問題を研究する千葉大学の服部岑生名誉教授が代表を、服部教授の研究室生がスタッフを務める。

設立から8年。地域のニーズや意見を取り入れて展開することで、活動に理解を示す住民は増えてきたという。受賞を機に事業を加速する。

（千葉市美浜区高洲2の3の14、043・245・1208）

奨励賞　特定非営利活動法人 たすけあいサポートアイアイ

階段昇降サポート事業

代表理事
岩橋　百合氏

たすけあいサポートアイアイは、千葉市美浜区に拠点を置き、高齢者向けに家事や介護の支援事業を展開する。受賞した「階段昇降サポート事業」は車いす式階段昇降機を使って、高齢者の階段昇降を支援するサービスだ。

区内には、昭和30―40年代に造成された中層の団地が多く、一部地域では高齢化率が3割を超えたという。「古い建物でエレベーターがなく、足腰も弱って、外出できない入居者が増えている」と岩橋百合代表理事は実感している。

サービスは片道850円から。年々出動回数は増え、今年は事業を始めた2008年の倍以上となる240回の出動を予定する。

事業ビジョンは、地域に住み続けたい人の思いを支援すること。「そういう人々のクオリティー・オブ・ライフ向上」（岩橋代表理事）のため、今後も事業を展開していく。

（千葉市美浜区高浜5の1の1の101、043・277・2852）